

「蓬原中野棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立蓬原小学校

2 学年・人数

志布志市立蓬原小学校	児童	4年生	12名		
		5年生	11名		
		6年生	7名	計	30名

※ 蓬原中野自治会 十数名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

蓬原小学校体育館・校庭

9月5日（月）1校時，21日（水）2校時

保存会に指導を依頼し，講師を派遣していただき，校庭で本格的な練習を2日間実施した。

(2) 発表の場所・日時

蓬原小学校・蓬原校区公民館合同秋季運動会

平成28年9月25日（日）

※ 演技予定時刻：14：20頃

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

蓬原中野棒踊り

(2) 由来

元々は，垂水市で島津義弘公の戦いの勝利を祝って始まった。2列縦隊の棒踊りは，150年前頃から伝わっているが，3列縦隊の棒踊りは，50年前ぐらいから踊られている。現在は，蓬原中野自治会の棒踊り保存会により，次世代へ継承されている。

(3) 構成等

本来は，短尺棒と長尺棒の2部構成。

運動会では，短尺棒の踊りを，保存会の生の歌で踊る。また，子どもたちが踊った後に，蓬原中野自治会の保存会が踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

10年前から，小学校・校区公民館合同運動会で，小学4～6年生による棒踊りが披露されるようになった。毎年，運動会前に蓬原中野自治会の棒踊り保存会が子どもたちに指導している。

今年も9月5日，21日の2回，蓬原中野棒踊り保存会による指導を受けた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

練習の時間が少ないので、DVDで踊りを見せ、子どもたちが覚えられるようにした。また、体育館での練習では、床を傷つけないよう、棒の先端に布を巻き付けさせた。子どもたちの棒に対する恐怖心をなくす効果もあった。

運動会では、子どもたちが扱いやすい短尺棒による踊りを発表した。発表の際は、児童全員が棒踊りの衣装に着替えて演技を行った。但し、衛生面や安全面から、裸足ではなく運動靴を履かせた。運動会当日の着替えは、保存会や保護者に協力をお願いした。

7 取組の様子

(1) 上級生から下級生へ



(2) 保存会の方々の指導



(3) 運動会での発表



(4) 保存会による演技



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 参加児童

4年生にとって初めての棒踊りなので、すごくわくわくドキドキしていました。

いざ練習が始まると、足のステップや棒を持つ手をスライドさせるところなどが難しくて、自分の手に何度も棒をぶつけてしまい、なかなかうまくできませんでした。それでも、暑い中、汗びっしょりになりながら、みんなで一生懸命練習しました。6年生や地域の方々が丁寧に教えてくださったので、少しずつ上手に踊れるようになってきて、踊るのが楽しくなりました。運動会では、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、地域の方々などたくさんのお客さんに見てもらって、大きな拍手をもらえたので、すごくうれしかったです。

来年は、もっと難しい「なか打ち」に挑戦したいです。そして今度は、ぼくたちが4年生に優しく教えてあげたいです。(4年男子)

4年生の頃にやったはずの「棒踊り」でしたが、すっかり忘れてしまっていて、思い出すのが大変でした。ですが、6年生や地域の先生方が教えてくださったので、すぐに思い出して踊ることができました。練習していて、一番大変だったのは、「みんなで息を合わせること」です。一所懸命踊っていると、周りが見えなくなってしまう、私たちのグループだけ速くなってしまったり、遅くなってしまったりすることがありました。周りの動きも意識しながら踊ることに気がつけました。本番では、みんなの息がぴったりとあったので本当に嬉しかったです。来年は、6年生なので、4年生や5年生を助けながらがんばりたいと思います。

(5年女兒)

(2) 保護者

毎年、運動会で披露される棒踊りを、家族も地域の人たちもとても楽しみにしている。厳しい残暑の中での練習なので、大変だと思うが、伝統ある棒踊りを受け継いでいくのは、大切なことだと思うので、これからも続けてほしい。

(3) 保存会

今年は、昨年より、踊りの覚え方もよかった。声もよく出ていた。相手に合わせながら棒を打つのは大人でも難しいのに、子どもたちはよく覚えて、三人組も上手にできるようになった。一生懸命覚えようという気持ちが伝わってくるので、教え甲斐もあった。今後もお手伝いをしていきたい。(指導者)